

設楽ダムを止め、みどりの水源の森をつくろう！

1 本末転倒した設楽ダム計画

6000万 m³ / 9200万 m³ 65% 不特定

設楽ダム計画では有効貯水容量 9200 万 m³ の 65%、洪水調節容量 1900 万 m³ を除いた利水容量 7300 万 m³ の 82% に当る 6000 万 m³ が、不特定（流水の正常機能の維持）容量とされています。ダム貯水容量の大半が不特定目的とされるのは異常なことです。

この 6000 万 m³ を何に使うのかというと、豊川用水への取水で減った宇連川の一部区間や豊川下流の流量を若干増やすためだとされています。川の環境改善の看板を掲げて巨大ダムを造り、これまで大きな河川事業がなく無傷できた自然豊かな寒狭川上流域を水没させ、ダム下流の寒狭川の溪流環境も壊すことは、本末転倒もはなはだしいものです。

2 水は足りています

平成 13 年度に完成した豊川総合用水事業で、以前の豊川用水に比べて約 5 割増の取水

ができるようになり、約 3 億 8 千万 m³ を確保できました。その結果、現在はおよそ 1 億 m³ を越える供給余力ができました。

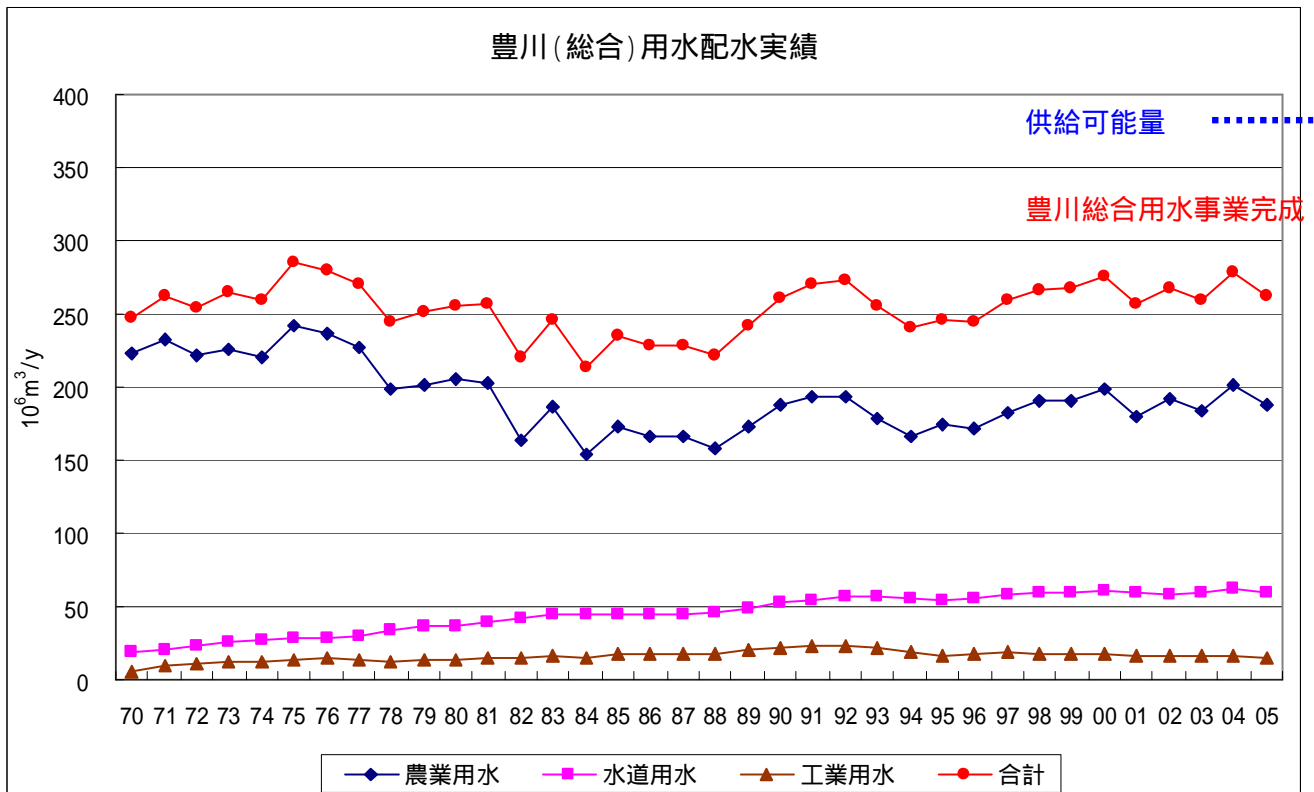
2006 年 2 月の豊川水系フルプラン変更時の検討資料を見れば、豊川用水・総合用水の水供給の態勢は十分整っていて、新規水資源開発の必要はないことが明らかです。農業用水に関しても、耕地面積は減っており、施設栽培の節水技術も進んでいますから、今後需要は伸びるどころか減るものと推定できます。



（大島ダム、豊川総合用水事業 2001 年度完成）

設楽ダムは、水道用水約 600 万 m³、および農水約 700 万 m³、計 1300 万 m³ の新規利水容量を目的に掲げていますが、必要があるとは思えません。

（水資源機構・東海農政局資料に基づいて作成）



3 渇水の備えはできています

この6000万³mは、渇水時には豊川用水への利水に使うとされています。当地域が観測史上1番の少雨年であった2005年の経験では、節水の呼びかけと、わずかの日数の給水圧調節のみで、被害は全くありませんでした。総合用水事業が完成した2002年度以後、設楽ダム建設目的である10年に1度程度の渇水への対応は、既にでき上がっています。設楽ダムで、水を溜める必要はありません。

年降水量 mm) : 欠測あり				
年	名古屋	伊良湖	作手	鳳来/新城
76	2029	1802	3246)	
77	1367	1326	2031)	
78	1104	1074	1802	
79	1527	1928	2574	2039)
80	1727	1237	2386	2218
81	1525	1578	1989	2049
82	1601	2339	3034	2854
83	1628	1515	2659	2426
84	1105	1069	1498	1364
85	1590	1688	2598	2219
86	1350	1419	1958	1897
87	1235	1126	1975	1941)
88	1590	1562	2326	1893
89	1644	1856	2760	2536
90	1904	1900	3008	2541
91	1990	1908	2499	2102)
92	1414	1788	2181	2080
93	1727	1596	2497	2076
94	1061	1189	1830	1748)
95	1393	1590	2188	1653
96	1157	1295	1876	1627
97	1610	1462	2377	1649
98	1980	2194	3254	2845
99	1629	1639	2539	2055
00	1736	1466	2525	2136
01	1415	1659	2029	1817
02	1083	1206	1731	1415)
03	1905	1865	2873	2279
04	1948	1894	2883	2069
05	901	1027	1406	1249
06	1612	1669	2626	2023

2005年は第1番の渇水年、気象庁アメダスデータより
(表のデータは、気象庁がホームページで公表している降水量によります。各観測点とも、観測史上で2005年が最小の降水量です(名古屋は116年間。)

4 ダムは清流・寒狭川を破壊します

設楽ダムはムカシトンボ、サンショウウオ、ネコギギ、クマタカなどの棲みかを壊し、アユやアマゴが釣れる愛知県一の清流を台無しにします。ダム湖に沈む地区に絶滅危惧種で大型の猛禽クマタカの繁殖縄張りがかかっています。



(設楽ダム予定地付近を飛ぶクマタカ、大羽さん提供)

清流に生きるネコギギは溜まり水のダム湖では生きられません。ダム下流は、ほとんど洪水が発生しない川となり、石の隙間に土砂が詰まって川虫も稚魚も棲みかを失います。アユが食む石の表面に生える珪藻も、洪水で石が洗われなくなれば育ちません。

ダム湖の水は富栄養化して濁ります。清流・寒狭川は、濁った水が、ちよろちよろ流れる用水路のようになってしまうでしょう。

寒狭川は天然記念物で絶滅危惧種のネコギギの愛知県下最大の棲息地です。伊勢・三河湾に流れ込む川の上流域のみに棲むこの地域の固有種で、流域の宝物です。



(固有種ネコギギは夜行性、伊奈紘さん提供)

大きな河川工事がなく、豊かな自然が維持されてきた寒狭川流域の自然を保全

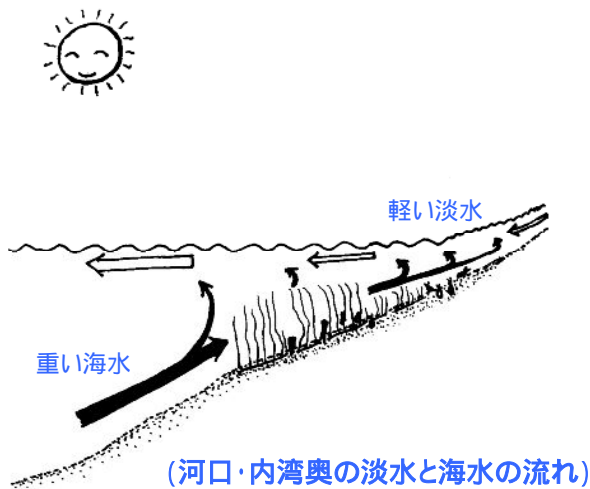
することは、次世代へ大切な財産を残すこととなります。オシドリ、ヤマセミ、カワガラス、トモエガモ、カワネズミ、カジカガエルなど、自然豊かな川筋にしか棲めない生き物が棲む清流を破壊してはなりません。



(田峯のオシドリ、伊藤仙二さん提供)

5 ダムは三河湾の汚濁を強めます

ダムによる新規利水は、豊川河口から三河湾奥に注ぐ淡水量を減らすので、河口・内湾の特徴的な鉛直循環流(エスチュアリー循環)を弱めます。その結果、河口干潟や藻場の生物生産が弱まり、魚介類の生産が衰えます。また、外海水を呼び込む力も弱まるので、海水交換が衰え、三河湾の汚れはひどくなります。



ダム湖に溜まるヘドロは、大雨時に一気に三河湾まで流下して、水質・底質の悪化を招きます。

海の浅場は海底まで十分な日照があるので、

藻場ができ、珪藻などの付着藻類も増えます。アマモや珪藻が、魚介類の餌となり、さらには多くの水鳥や大型の動物を育てます。

ダム湖の堆砂が進むと、土砂供給が断たれて浅場が浸食され、生物が生活する基盤が失われてしまいます。既存の宇連ダム、大島ダムも土砂を止めていますから、設楽ダムができれば、海の生物に大きな影響が及びます。

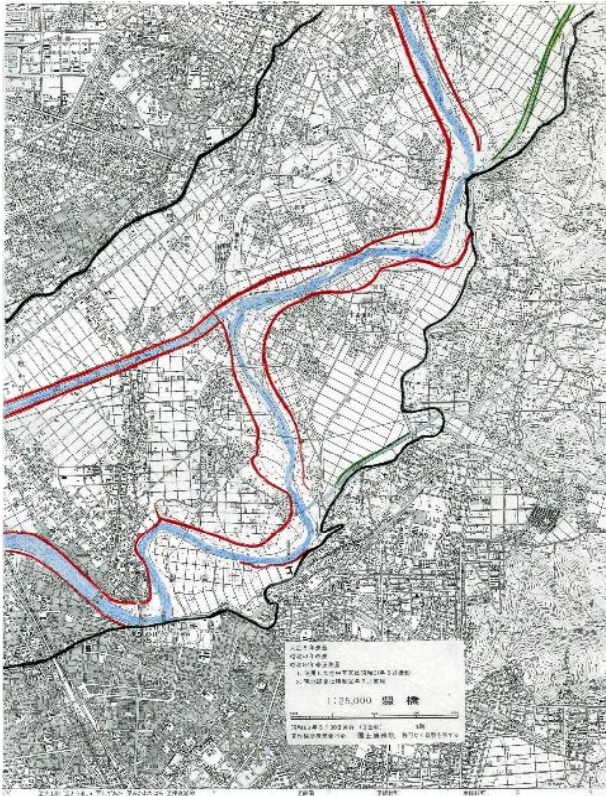


(豊川河口付近に広がる砂質干潟、六条潟)

6 ダムで水害はなくなりません

設楽ダムがカバーする集水面積は62km²で、わずか11%(新城市石田地点の集水域に対する比率)をカバーするのみですから、89%の洪水調節はなされません。したがって、下流の水害は設楽ダムができてもなくありません。既設の利水ダム、宇連ダムと大島ダムは洪水調節能力がありません。1965年に豊川放水路が完成して豊川流域の水害は軽減されましたが、経験を超えるような大雨が降った場合にも、人命に関わる被害を出さないようにすることが大切です。右岸側は堤防締め切り後、低地部分の開発が進んで住宅も増えてきています。堤防の高さを越える大洪水が発生して、破堤した場合には、甚大な被害がでる恐れがあります。下流低地の水害をなくすには、ダムに頼るのではなく、森林や水田の保全、堤防の整備強化、不連続堤・遊水地の活用、水害危険度の高い低地の開発規制など、流域全体で総合的に取り組んでこそ、水害を減らせます。

豊川下流に残る不連続堤・遊水地(「霞堤」)はこの地域の貴重な文化遺産でもあり、有効活用することは他の河川流域の人々にも参考にしていただけるはずです。



(豊川下流部左岸の不連続堤・遊水地、洪水の際に浸水が始まる差し口付近には住宅はできていません)

7 ダムは過疎に拍車をかけます

ダムができると確実に人口の流出が進み、設楽町・奥三河のみならず、豊川流域圏の持続的発展に障害をもたらします。

100軒を越す水没予定住民が設楽町から出て行く可能性があります。ダム湖によって孤立してしまう集落から、立ち去らざるを得なくなる住民も出てくるでしょう。



(水没線ぎりぎりの大名倉集落も全戸移転を迫られている)

生まれ育ったふるさとを捨てて出て行くことは、大変なことです。水源地域の山地に人が住まなくなれば、山林の手入れも困難になり、山林は荒れます。上流の山林が保全されなけ

れば、大雨による山腹崩壊、下流域では大きな水害の発生が起きることになるでしょう。良質で豊富な水資源を確保することも難しくなります。設楽町田口をはじめ、残存する地区にもダム建設とダム湖の出現は、地すべり・地震災害、微気候変化、人口減少など、深刻な影響を及ぼします。ダムづくりではなく、森林や溪流とともに生活できる「村おこし」を流域全体で支援することこそ必要なのです。

8 生命を育む水源の森づくりを！

設楽ダムの建設は、数千億円の多大な費用を要し、そのおよそ3割を愛知県が負担します。愛知県の財政は決して安泰ではありません。県営水道料金を押し上げるとともに、農業用水の賦課金にも影響がないとは考えられません。高齢社会、人口減少期を迎えて、いつまでも、無駄な巨大ハコモノ施設を造り続けるようなことをしては、健康で文化的な県民の暮らしを維持していく見通しは得られません。財政投資を抜本的に見直して、無駄を省き、時代に合ったものに転換していくことが今ほど必要な時期はありません。

奥三河の自然豊かな森が生み出す清流、ネコギギヤカジカガエルが棲み、アユやアマゴ釣りを楽しむことができる自然豊かな寒狭川、下流部まで透明感を保つ豊川、その河口に広がる六条潟のアサリをはじめ、海のめぐみが育つ三河湾・・・豊かな愛知県東部・豊川流域の自然を次世代に受け渡していくことこそ、地域の大切な目標です。

行政はダムが自然を壊すことを隠していますが、**巨大ダムは取り返しのつかない環境破壊を惹き起こします。ダムを止め、地域全体（流域圏）の力を合わせて豊かな水源の森づくりにとりくみましょう。**



設楽ダムの建設中止を求める会
代表 市野 和夫
441-1101 豊橋市賀茂町山屋敷 28-1
事務局: 奥宮 芳子

440-0069 豊橋市御園町 1-3
Tel & Fax: 0532-54-7305

E-mail: ichinok7@mx3.tees.ne.jp

URL: <http://no-dam.net/index.html>